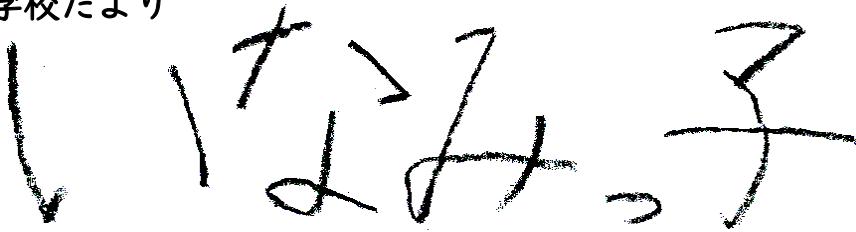




学校だより



令和8年1月23日

南砺市立井波小学校

1月号 第374号

井波小学校 HP アドレス

<https://inami-e.nanto.ed.jp/>

題字 1年 田中 煌太郎さん

(題字は今年度県書き初め大会出場児童)



何のために

校長 中町 寿子

昨年10月、瀬木直樹映画監督による「映画づくりはまちづくり・ひとづくり」と題した講演を拝聴しました。地域の現状を見つめ、地元のニーズを丁寧にすくい取りながら映画を制作し、完成した作品を多くの人に届けていく——そこまでが映画づくりのゴールだと、私たちは



つい考えがちです。しかし瀬木監督は、映画が公開された「その後」こそが大切であり、映画によって高まった地域の魅力や人々の思いを、どのように生かしていくかは、その町に暮らす人々次第なのだと語られました。講演の中で映画の一部を見ましたが、思わずその土地を訪れてみたいくなるような、温かな愛着の生まれる作品でした。そして、映画づくりに携わった地域の方々が、その制作や公開を契機として、映画の内容を生かした地域の活性化に力強く取り組んでおられることも紹介されました。地域の方々が元々もっていた誇りや愛情を呼び覚まし、新たな行動へつなげていく——そこに瀬木監督の取組の魅力を感じました。瀬木監督は、「何のために映画をつくるのか」という問いを、終始明確にもっておられたのです。

「何のために」。この問いは、何かを進めていくときに、自分の進むべき方向をはっきりと示してくれます。それは、大人にとっても子供にとっても同じです。例えば、3月には卒業証書授与式を行います。この行事は「何のために」行うのでしょうか。儀式としての意味や、卒業生一人一人の成長を祝う場であることは言うまでもありません。それと同時に、在校生にとってどのような学びや気付きのある行事なのかを丁寧に捉えることも大切です。

本校では、全ての子供たちが自分自身の成長を実感できる機会となるよう、教職員全員での行事のねらいを共有しました。目的を理解して取り組むことは当たり前のことではありますが、改めて肝に銘じておきたいと考えています。

一方で、「自分のなすべきこと」を見失わずに信じ、歩み続けることは決して容易ではありません。始業式では、6年生の児童が、6年間積み重ねてきたスポーツへの思いや取組について語ってくれました。苦しい時期を乗り越えながら、続けてきたことの意味や価値を、自分の言葉で堂々と伝える姿に、私は心が揺さぶられました。

改めて、私自身も考えています。どこに向かって、何のために、どのように進めていくのか。私のなすべきことは、井波の子供たち一人一人の成長を、精一杯支えていくことです。「何のために」という問いを常に自らに投げかけながら、これからも子供たちを見守り、学校運営に努めてまいります。



〈始業式から〉

2~3月の主な予定

2月

- 2日 (月) 集団登校
- 3日 (火) 半日入学 入学説明会
- 6日 (金) 校内研修会
 - ・5年2組以外の学級は給食後 13:10 下校
 - ・5年2組は 14:15 下校
- 18日 (水) 校外児童会 5限後集団下校
- 21日 (土) 学習参観 スポ少等 PR ミーティング
学年懇談会
- 24日 (火) 振替休業日
- 27日 (金) 5限後下校

3月

- 1日 (日) PTA 親子で通学路を歩こう
 - 2日 (月) ~5日 (木) 5限後下校
 - 6日 (金) 卒業おめでとう集会
 - 17日 (火) 卒業証書授与式
 - 23日 (月) 集団登校 給食終了 5限後下校
 - 24日 (火) 集団登校 修了式
 - 25日 (水) 学年末休業開始
- ※令和8年度1学期始業式は4月8日 (水)、
入学式は4月9日 (木) です。

給食のパワー

給食主任 荒木 典子

給食の時間が近付くとカタカタと小さな音を立てて、給食のワゴン車が廊下を通っていきます。子供たちにとって給食の時間は学校に来る楽しみの一つです。登校すると、今日の献立をチェックして「よし、今日の給食を楽しみにしてがんばろう。」と思っている子供もいます。4限が終わるとすぐに「いい匂いだな。」「今日は唐揚げだよ。」「やったあ。」と子供たちもそわそわし始めます。

「いただきます」をして給食を食べ始めると、「おいしいね。」「この食材は何だろう。」と自然と会話が弾み、友達とおいしさを共有したり食材への興味をもったりする姿も見られます。子供たちは、給食を通して、友達と交流し、気付くことがあるようです。

給食委員会では、今年度の初めに栄養教諭から栄養バランスや体格に応じた量、地域の食材を使うこと、見た目等様々なことから給食の献立が考えられていることを聞きました。委員の子供たちは、「こんなに多くのことを考えて作られているとは知らなかった」「みんなに知ってもらいたい」と感想をもちました。そして話し合った結果、今年度の活動の目当てを「給食の大切さを知り、給食の時間を楽しみにしてもらえるようにしよう」と決めました。

2学期には、子供たちが自分の食べるデザートを選べる「デザートを選ぼう給食」を企画しました。「デザートを選べるようにしたら盛り上がるのではないか」「みんなが好きなものにしたら楽しみにしてもらえるのではないか」と、全校の人たちにもっと給食を楽しんでもらうためには、どうしたらよいかを考え、準備を進めました。

3学期は、学校給食週間を通して感謝を伝える活動に取り組んでいます。子供たちが、給食に携わる方や食材に感謝し給食への関心をさらに高められるよう取り組んでいきたいと考えています。



元気いっぱい井波っ子

3年「書き初め大会」

3学年主任 斎藤 雅弘

4月から書写の時間に毛筆を使った学習に取り組んでいます。ほとんどの子供たちが筆を持つのは初めてで、用具の準備や片付け、書くときの姿勢や筆の持ち方、筆使い等を一つ一つ覚えていきました。

そして、12月からは大きなだるま筆に持ち替え、書き初め大会に向けて練習を始めました。課題は、「うめの花」です。

3学期の始業式の後に行われた書き初め大会で、子供たちはこれまでの学習や冬休み中の練習の成果を発揮し、自信をもって作品を書き上げていました。



6年 体育科「走り高跳び」

6学年主任 上野 琢磨

体育科で「走り高跳び」の学習を行いました。この学習では、一人一人が自分に合った目標に向かって活動するため、始めに目標記録を計算しました。「身長×0.5-50m走のタイム×10+110~130」で、個人の運動能力に適した目標記録を算出しました。

その後の練習では、5歩で助走することや踏み切るときは体を一直線にすること、振り上げ足を伸ばすこと等を意識して取り組みました。

子供たちは「意識するところがたくさんあるけど、上手に跳べるようになってきた」「5年生の頃より10cm高く跳べた」など、活動を通して技術の高まりを実感していました。

また、走り高跳びは西能スポーツ賞の規定種目の一つになっており、男子115cmを4人、女子110cmを2人が突破しました。

3月に授賞式を行う予定になっています。

